

Vol. 152

2017.3.28

理事長トーク Top Interview

大泉学園複合施設の開院式が行われました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



2017年3月19日（日）

「大泉学園複合施設 ねりま健育会病院/ライフサポートねりま」の開院式が行われました。グループとしては8箇所目の病院、13箇所目の介護施設となります。

明るい日差しに春の気配を感じる青空のもと、練馬地域の自治体・医療関係者、建築でお世話になった皆様など100名以上の方々にお集まり頂きました。



今回の大泉学園複合施設開院のきっかけは、同じ練馬区の氷川台にあるグループ施設「介護老人保健施設ライフサポートひなた」の開院に向けて練馬区の方々と協議を重ねていた頃に遡ります。協議の中で、練馬区の職員の方々が「竹川病院」に見学にいらして頂き、その運営を高く評価していただいたことがきっかけとなり、平成25年に練馬区として正式に「練馬区内に回復期リハビリテーションの病院が少ないため、運営実績のある健育会にぜひ整備を進めてもらえないか」というお声がけを頂きました。その後、病院建設にふさわしい土地を練馬区からご紹介いただき、幾度もの協議を重ね、約1年の工期を経て、この度の開院の運びとなりました。特に、回復期リハビリテーション病棟を有する病院は練馬区内では2箇所目で、地域の皆様の高い期待を感じています。



大泉学園複合施設は、建物の2階に100床の回復期リハビリテーション病院、3階に80床の介護老人保健施設、そして訪問看護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、居宅介護支援事業所の機能を有する都内でもまだ数少ない複合施設です。建物の構造を生かした歩くりハビリを実践する100m廊下、また365日いつも花が咲いているガーデンを配置するなど、「攻めのリハ」を実践するための工夫を随所にしています。またガーデンは、地域コミュニケーションを想定して地域の皆様にも自由にお使いいただけるようになっています。

開院式では、健育会グループのご紹介、前述のような開院の経緯、今後への抱負をお話しさせていただいた後、院長の酒向先生から、大泉学園複合施設で目指す医療・介護、そして入院での人間力回復のための「攻めのリハ」、そして社会参加型支援の外来リハビリ等について説明させていただきました。この大泉学園複合施設は、自治体、そして地域の皆様との連携の強化によって、さらにその存在意義を高めることができます。職員一丸となって、地域の皆様に愛される病院／施設を実践していきたいと考えています。



ねりま健育会病院 理念

私達は、職員の笑顔とともに、卓越したリハビリテーション医療と心温まるホスピタリティを提供し、早期の在宅復帰と社会参加を実践することで地域貢献を進めます。

ライフサポートねりま 理念

私達は、ねりま健育会病院との連携のもと、チーム・リハビリテーションケアと心温まるホスピタリティを提供し、心豊かな暮らしと社会参加を支援することで、地域貢献を進めます。



その後、練馬区長 前川 耀男様、練馬区議会議長 田中 ひでかつ様、練馬区医師会長 小山 寿雄様から祝辞を頂きました。

練馬区長 前川 耀男 様（抜粋）



ねりま健育会病院は、区内2箇所目の回復期リハビリテーション病院として、ライフサポートねりまは区内14箇所目の介護老人保健施設となります。私たち練馬区の人口は72万人を超え、23区では2番目ではありますが、人口10万人あたりの一般病床・療養病床数は、23区平均の約3分の1にすぎません。特に回復期の病院が少ないのが現状です。今後、高齢化がさらに進展し、医療需要が増大することが確実ですが、これに対応して福祉医療サービスを充実することが、区政の喫緊の重要課題となっています。急性期から回復期、慢性期、在宅医療までバランスのとれた切れ目のない医療提供体制を整備すると共に、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的、継続的に提供される地域包括ケアシステムを構築することが必要となっています。ねりま健育会病院は急性期を脱した患者に集中的なリハビリを行い身体機能を回復させ、在宅への移行や社会復帰を目指す病院です。また介護老人保健施設を併設することで退院後のケアを、医療と介護の両面からサポートすることができます。大泉地域における地域包括ケアシステムの中核的な役割を担う病院として、大きな期待を寄せております。

練馬区議会議長 田中 ひでかつ 様（抜粋）



医療法人社団健育会には長年に渡り地域医療に携わって来られました経験がございます。練馬区においても様々な医療サービスを提供すると共に地域連携を図り、区民に信頼される病院となるように努めていただき、安心して暮らせる環境を望む区民の期待に応えていただければと思います。練馬区は今年70周年を迎えます。これからは豊かな緑を大切にしながら、練馬区に住んでいることを誇りに思える都市にさらなる発展をしなければなりません。区議会といたしましても、地政を取り巻く課題に迅速・的確に対応し、医療福祉のためにより一層努力して参ります。

練馬区医師会長 小山 寿雄 様（抜粋）

ねりま健育会病院は、回復期リハビリテーション病院としては練馬区内2箇所目の病院として開院されます。練馬区は病院が少ない、病床が少ないという声強いわけですが、区民の皆さんも練馬区内だけでなく近隣の板橋区を始めとした民間病院、都心部の大学病院にかかられています。急性期の場合は大体2週間以内の入院となり、ご家族はお見舞いやお世話に通われます。しかし、急性期から在宅に復帰されない場合、回復期／慢性期となると、数ヶ月どころか数年にわたって入院となるケースもあり、その間ご家族はとてつご苦労されるわけです。ねりま健育会病院が開院することにより、少しでも練馬区民が家の近くで療養に集中できるようになることが期待されます。また、災害時の医療についても、いざという時に区民が頼りにできる医療の拠点となるよう、期待しています。

また、無事工事を施工いただいた株式会社伊藤喜三郎建築研究所様と株式会社熊谷組様に、開院式の間を借りて感謝状をお送りさせて頂きました。



開院式の後の記念パーティは、リハビリテーション室にて行い、乾杯のご発声は、元厚生労働省医政局長であり、現在医療法人社団健育会の副理事長を勤めていただいている岩尾 総一郎先生に頂きました。



そして、パーティの終わりには、ねりま健育会病院／ライフサポートねりまで、それぞれの部署を牽引する立場となる責任者の職員を皆様を紹介しました。



本当に多くの皆様のご尽力で、開院式を迎えることができました。ねりま健育会病院／ライフサポートねりまとも、4月1日には正式にオープンいたします。今後、高齢化が一層進む中で、大泉学園複合施設が練馬区周辺にお住まいの方々のご期待に応えられるような病院施設運営をしてまいります。